

資源回収奨励金は

Q 自治会や子供会などが廃品回収を行っているが、収集量が減ってきている。奨励金を見直す考えは。

A 民間の無人回収ボックスの利用が増えたと思われる減ってきている。奨励金については議論する必要がある。

不法投棄の改善を

Q 家電の不法投棄が毎年多くなっている。投棄される場所が決まっているのか。対策は考えているのか。

A 同じ場所に投棄される傾向がある。警察と連携し、投棄者を特定できたこともあり、今後も連携し対策をとる。

高齢者の交通安全対策は

Q 高齢者の交通事故防止のため「高齢者の交通安全自転車教室」を一回実施していたが、その内容と課題への対策は。

A 試験的に播磨南小学校校庭で子ども教室の後に実施した。今後は全小学校で開催し、地域に呼びかけ啓発したい。

土山駅前時計の改善は

Q 土山駅前モニュメントの時計が頻繁に故障したり、時間に誤差が生じている。保守点検の方法は。

A 修繕委託により時計の遅れは調整している。修繕費が高額であるため、今後のあり方については検討する。

財政硬直化への対応は

Q 扶助費や人件費が急増し経常収支比率が上昇している。来年度は税収の落ち込みが想定されるが対応は。

A 扶助費は義務的経費だが、特に丁寧な議論が必要である。将来を見据え、歳出見直しの議論も必要である。

組織機構改革の時期は

Q 町長の施政方針にある、町人材基本方針に基づく組織改革の方向性は、いつ議会に提示できるのか。

A 時期は確定していない。どのタイミングで実施すべきか、具体的な進め方について時間をかけて協議したい。



▲廃品回収に協力を



▲子どもが遊ぶ遊具の安全を



▲2005年に建設された土山駅前モニュメント



▲職員による漁港ゲートの点検

民生児童委員の活動は

Q 民生委員の行政協力事務が多岐にわたり、責任と守秘義務もあるため、なり手の減少が課題である。解決策は。

A 委員の活動に対し、行政も力添えをし、地域連携を図り、委員の方が活動しやすい形を検討していきたい。

総合相談運営事業は

Q 福祉会館の総合相談窓口設置で充実が図られると期待しているが、すぐに解決できない場合の長期的な対応は。

A 相談後の支援の継続が大切だと考えている。定期的な確認やバックアップで長期的に対応できるようにしたい。

遊具の安全性確保を

Q 学校の遊具は園児や児童の安全確保のために安全点検が必要である。点検は誰がどのようにしているのか。

A 遊具を点検する資格を持つ委託業者が年1回点検し、様式に基づき報告がある。必要な箇所は改修している。

自治会管理の街灯は

Q 街灯のLED化は、1灯につき1万円の補助金がある。毎年交換数が増えていたが、大幅に減少した原因は。

A 平成30年度に規模の大きな自治会でまとめてLEDに交換しているため、今年度は減少した。

ビオトープの管理は

Q 野添北公園のビオトープの通路の段差の安全対策に加え、蛍鑑賞のためにも照明の調整が必要では。

A 照明の調整については、今の運営で問題ないと確認している。蛍の生育環境を整える工事を予定している。

漁港ゲートの点検は

Q 町職員による漁港ゲートの操作点検はどのような体制で実施しているのか。また操作に要する時間は。

A 国や県からゲートの開閉時間などについての照会がある。2人1班体制で、1時間半程度で全て操作できる。